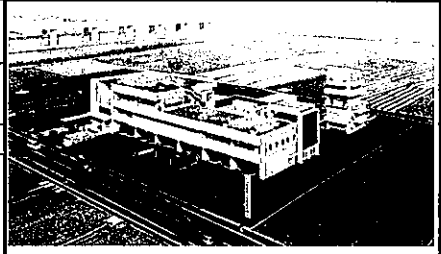


CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	消防本部庁舎移転新築工事	階数	地上3F
建設地	京都府城陽市富野東田部33番地他	構造	RC造
用途地域	指定なし、法22条地域	平均居住人員	35人
地域区分	S地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2018年5月18日
敷地面積	6,426㎡	作成者	嵯浦野設計 関西支社
建築面積	1,555㎡	確認日	2018年5月25日
延床面積	3,624㎡	確認者	嵯浦野設計 関西支社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE=1.4 ★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 79%</p> <p>③上記+②以外の 77%</p> <p>④上記+ 77%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1</p>

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>「市民が安心して生活できる消防体制の充実したまち」をめざすための活動拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民を守る拠点として安全と安心が確保できる庁舎 情報発信基地として通信機能が充実した庁舎 市民が親しみやすい庁舎 経済性、機能性に配慮した庁舎 環境にやさしい庁舎 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民啓発施設として展示スペース、見学通路、研修室、大会議室を設置。 雨水貯留タンクの設置。 照明はLED化及び人感センサー付き照明器具の採用。
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用建材にF☆☆☆☆を全面的に採用。 自然換気性能の向上。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> バリアフリーの移動等円滑化基準を満たし誰もが安心して利用できる施設。 維持管理に配慮した内装材の選定。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電設備を採用。 建物外皮熱負荷抑制のための適切な断熱計画や外部リファクタリングの採用。 自然採光・通風の確保。 省エネ機器の採用。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> リサイクル材の積極的な活用。 分別解体が可能な工法を積極的に採用。 有害物質を含まない材料の使用。
<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場と駐輪場の適正台数を確保。 緑化の推進。 	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される